

RCHR 第152回サロンde人権

話題提供: 金 孝眞 氏

(ソウル大学日本研究所 助教授・文化人類学
ソウル大学人類学科 学士・修士
ハーバード大学人類学科 哲学博士)

フェミニズムの時代、

ボーイズ・ラブの意味を問う

2010年代韓国のネット上における

脱BL言説をめぐって

無料

10月16日(水)

午後 2時~4時

大阪市立大学 田中記念館

2階 会議室

お問い合わせはセンターまで
06-6605-2035

otazune@rchr.osaka-cu.ac.jp

韓国では1990年以降、日本から輸入されたボーイズ・ラブ(BL)が女性を中心に幅広く読まれてきており、少なくとも30年以上の歴史を持つ、大衆文化の一ジャンルとして成り立っている。現在は二次創作を中心とした同人誌はもちろん、商業BLもE-bookを中心とした市場を維持しており、またK-POPの人気とともにアイドル・ファンフィクも非常に高い人気を誇っている。このような状況で、2018年8月頃から韓国語ベースのツイッターを中心に「脱BL」という言葉をよく見かけることになった。ここでいう脱BLは文字通り「BLから脱出する・BLを捨てる」という意味で、BLの様々な問題を認識し、究極的にはBLの消費をやめるという意味合いを持つ。この発表では、キリスト教と政治的保守派にもとづいた既存のBL批判とは全く違うコンテキスト、特に2015年以降の「フェミニズム・リブート(Feminism Reboot)」と呼ばれる韓国の社会現象を探り、脱BLが生まれたコンテキストとそのロジック、および問題点について概観するのを目的とする。また、BLの表現を通じてどのような可能性が開かれるのかについてよしながらみの作品分析をもとに触れたい。